

4. 赤レンガ建物

Handa Red Brick Building

1,066/1,000 words

- ①History of the Handa Red Brick Building / 半田赤レンガ建物の歴史
- ②Rivalry with the Big Four / 四大ビール会社との競争
- ③Kabuto Beer Advertising / カブトビールの広告戦略
- ④Red Bricks / 赤レンガ
- ⑤Vestiges of War / 戦争の痕跡
- ⑥Trolley Track / トロッコ

半田紅磚建築の歴史沿革

建於西元 1898 年的半田紅磚建築，至西元 1943 年期間為 Kabuto 啤酒（又稱加武登麥酒）的釀造廠。

西元 1887 年，因稅賦增加導致清酒銷量下滑，清酒與醋釀造商四代中埜又左衛門（西元 1854—1895）為尋求新事業，與侄子盛田善平（西元 1863—1937）一起著手研究啤酒釀造。西元 1889 年 5 月，第一批啤酒正式出廠。然而，一直到西元 1895 年在京都舉辦的工業展上亮相後，他們的啤酒銷量才開始趨於穩定。西元 1896 年，四代又左衛門與善平乘勢創立了丸三啤酒株式會社。

該公司決定建造一座最先進的啤酒釀造廠，並委託日本近代化時期的最知名的建築師之一——妻木頼黄（西元 1859—1916）設計。機械工程師 Friedrich Vogel 和釀酒工程師 Joseph Bongoll 從啤酒發源地德國聘請來日，負責設備安裝並指導員工釀酒技術。西元 1898 年全面量產後，產品更名為 Kabuto 啤酒。這款啤酒具有正宗的德國啤酒風味，在國內與海外市場都獲得了無數的獎項及讚譽。

儘管啤酒初期大獲成功，但銷量最終仍逐漸下滑，啤酒廠進而在西元 1943 年停業。該建築後來成為飛機倉庫，並在二次世界大戰（西元 1939—1945）期間遭到空襲轟炸；北牆上的巨大的彈孔即為空襲的殘跡。其後轉為食品工廠並營運至西元 1994 年。西元 1995 年，這座原已廢棄的建築開始拆除。然而居民發起請願，希望保留這座歷史悠久的磚砌建築，促使市政府出面收購並中止了拆除作業。在當地文物保存行動推動下，這座建築逐漸得到修建與復興。

西元 2005 年，知多麥酒株式會社受託根據歷史記載復刻了最初的 Kabuto 啤酒配方。首款復刻配方「明治 Kabuto 啤酒」，是一款在攝氏零度下釀造三個月的拉格啤酒。其酒精含量為 7%，呈紅褐色。這款啤酒甘甜中帶有強勁的啤酒花苦味，口感近似德國啤酒。第二款配方「大正 Kabuto 啤酒」，為酒精濃度 5% 的澄澈琥珀色拉格啤酒。口感滑順清爽，還有清新的啤酒花苦味。

翻修後的建築在西元 2015 年以博物館之姿對外開放。常設展覽以紅磚建築和 Kabuto 啤酒的歷史為主題，展示啤酒瓶設計、商標及其他廣告素材。館內播放配有英文及中文字幕的影片，介紹以半田紅磚建築為核心的半田歷史。咖啡館提供以在地食材烹調的料理，商店則販售發酵調味品、特色食品與其他知多特產。明治與大正 Kabuto 啤酒在商店和咖啡館都有販售。

半田赤レンガ建物の歴史

半田赤レンガ建物は 1898 年に建設され、1943 年までカブトビールの釀造所として稼働していました。

1887 年、酒や酢の醸造業を営んでいた 4 代目・中埜又左衛門（1854-1895）は、酒税の増税による売上低迷を背景に新たな事業を模索し、甥の盛田善平（1863-1937）とともにビール醸造の研究を始めました。1889 年 5 月に初出荷を行いました。販売が軌道に乗ったのは、1895 年に京都で開かれた内国勸業博覧会で注目を集めた後のことでした。この成功を受け、又左衛門と善平は 1896 年に丸三麦酒醸造所を設立します。

同社は最新鋭の醸造所を建設することを決め、日本の近代建築を代表する建築家・妻木頼黄（1859-1916）に設計を依頼しました。さらに、機械技師フリードリヒ・フォーゲルと醸造技師ヨーゼフ・ボンゴルをビール醸造の本場ドイツから招き、機械設備の導入と従業員への醸造技術指導を行わせました。1898 年に本格的な製造が始まると、製品名をカブトビールに改めました。ドイツビールの本格的な味わいが特徴で、国内外の博覧会で数々の賞や高い評価を受けました。

しかし、順調だったビールの人気は次第に陰りを見せ、醸造所は 1943 年に閉鎖となりました。その後、建物は航空機関連の倉庫として使われ、第二次世界大戦中には空襲で被害を受けました。戦後は食品工場として 1994 年まで使用されますが、1995 年に解体工事が開始されました。しかし市民たちが保存のための請願を行ったことを受け、半田市が建物を買い取ることと決定し解体は中止されました。

2005 年には、歴史資料をもとにカブトビールの味を復刻するため、知多麦酒がレシピの再現を委託されました。復刻ビールのひとつ明治カブトビールは、0℃で 3 か月熟成させたラガーで、アルコール度数 7%、赤褐色が特徴です。甘みとホップの豊かな苦味のバランスが良く、ドイツビールに近い味わいです。もう一つの大正カブトビールは、琥珀色のクリアなラガーで、アルコール度数は 5%。すっきりとした飲み口と爽やかなホップの苦味が魅力です。

2015 年、改修を経て半田赤レンガ建物は一般公開されました。常設展示では、建物やカブトビールの歴史を紹介し、瓶のデザインやロゴ、広告資料などを展示しています。英語・中国語字幕付きの映像では、赤レンガ建物を中心とした半田の歴史を紹介しています。カフェでは地元食材を使った料理を楽しめ、ショップでは発酵調味料や食品など知多地域の特産品を販売しています。明治・大正カブトビールもカフェとショップで購入できます。

與四大巨頭的競爭

至西元 1890 年代末期，Kabuto 啤酒已成為日本第五大啤酒廠，僅次於東京 YEBISU、大阪 Asahi、北海道 SAPPORO 及橫濱 KIRIN 四大品牌。面對激烈的競爭，這家啤酒廠採取了獨特的策略來確立自己的市場定位。在 1895 年京都舉辦的第四屆全國工業展上，啤酒廠聘請穿著吸睛紅色圍裙的藝伎侍酒款待賓客，讓品牌形象深植人心。西元 1900 年，Kabuto 啤酒在東海地區（以名古屋為中心）擁有最高的市佔率，並在巴黎世界博覽會上獲得金牌。1903 年大阪舉辦的第五屆全國工業展覽會吸引了共 435 萬名參訪者，Kabuto 啤酒在展會上大獲好評。西元 1910 年名古屋舉辦的第十屆關西縣聯合展覽會中，Kabuto 啤酒設立了啤酒館與 Asahi 啤酒和 KIRIN 啤酒同台較勁，儘管其啤酒品質廣受好評，仍遭受重大虧損。

四大ビール会社との競争

1890 年代半ばまでに、カブトビールは、東京のエビス、大阪のアサヒ、北海道のサッポロ、横浜のキリンに次ぐ、日本で五番目の規模を誇るビール会社に成長していました。強力な競合他社を前に、同社は独自の戦略で存在感の確立を図りました。1895 年の第四回内国勸業博覧会（京都）では、華やかな赤い前掛けを身につけた芸妓を雇い、ビールの提供や来場者の接待を行わせるという演出で大きな注目を集めました。1900 年には、カブトビールは名古屋を中心とする東海地方で最大のシェアを獲得し、パリ万国博覧会で金賞を受賞しています。1903 年の第五回内国勸業博覧会（大阪）では、来場者 435 万人超を迎える中でカブトビールは好評を博しました。さらに 1910 年、名古屋で開催された第十回関西府県連合共進会では、アサヒやキリンのビアホールに対抗して自社のビアホールを出展しましたが、ビールの品質が高く評価された一方で、大きな赤字を抱える結果となりました。

Kabuto 啤酒廣告

為了與主要競爭對手 YEBISU、Asahi、SAPPORO 和 KIRIN 相抗衡，啤酒廠在廣告宣傳上不惜重金，採取了獨特的浮誇行銷策略。其發起的每瓶蓋換 3 錢（相當於現在約 30 日圓）活動，堪稱日本首創。啤酒廠一幅廣告海報特邀二十世紀初被譽為「日本第一美女」的藝伎萬龍（西元 1894—1973）擔任主角。公司往來文件採用特製印刷信封寄送，兼具宣傳效果。廣告看板遍佈日本各大城市。名古屋車站外曾矗立的廣告塔，其等比例復刻品現存於半田紅磚建築前，建築內則展示著半比例模型。

カブトビールの広告戦略

丸三麦酒は、エビス・アサヒ・サッポロ・キリンといった大手に対抗するため、派手で独創的な広告手法を惜しみなく投入しました。中でも「ビールの王冠 1 個で 3 錢（現在の約 30 円）に換金」というキャンペーンは、日本で初めての試みでした。また、同社の広告ポスターには、1900 年代初頭に「日本一の美人」と称えられた有名芸妓・萬龍（1894–1973）を起用しました。会社の郵便物には特別に印刷した封筒を使用し、これも宣伝媒体として活用していました。全国の主要都市に広告看板を設置し、かつて名古屋駅前にあった広告塔の原寸大レプリカが現在は半田赤レンガ建物の前に、1/2 スケールの縮小版が館内に展示されています。

紅磚

半田紅磚建築用了 240 萬塊當地生產的磚塊來建造，如果將這些磚一塊塊相連，總長度可超過 500 公里——約等同半田至廣島的距離。這些磚塊採用英式砌法來堆疊，即長邊朝外的磚列與短邊朝外的磚列交替排列。這種砌法可以讓磚牆結構更加穩固。在日本較少見的法蘭德斯式砌法中，則是長邊和短邊交替砌在同一排中。雖然法蘭德斯式砌法常被認為更具美感，但不如英式砌法來得堅固，一般只用於規模較小的建築。磚牆為五層磚砌垂直構成，以提供隔熱效果並保持啤酒釀造所需的低溫環境。從建築物的北邊入口處可以見到外露的橫斷面。

赤レンガ

半田赤レンガ建物は、地元で生産された約 240 万丁のレンガを使用して建てられました。これらのレンガを一行に並べると約 500 キロメートルに及び、半田から広島までのおおよその距離に相当します。レンガの積み方にはイギリス積みが採用され、レンガの長手が見える段と、小口が見える段を交互に積むことで、壁の強度を高めています。一方、同じ段の中で長手と小口を交互に並べるフランス積みは、日本ではあまり一般的ではありません。見た目が美しいとされる一方で強度が劣るため、小規模な建築物に使われることが多い工法です。壁は断熱性を確保し、ビール釀造に必要な低温を保つため、縦方向に 5 層構造で造られています。建物北口では、断面が露出したレンガ壁を実際に見ることができます。

戦争残跡

在第二次世界大戰的後半期（西元 1939—1945），半田紅磚建築曾作為中島飛行機株式會社食品與服裝倉庫，因此成為空襲的目標。西元 1945 年 7 月 15 日下午 1 點左右，美國 P-51 野馬式戰鬥機襲擊建築物時，有許多孩童正在外面玩耍。當時戰機飛行高度極低，孩子們事後回憶甚至能看到飛行員臉上的表情。建築北牆至今仍可見機槍掃射的痕跡，牆面佈滿彈孔。從牆面取出的機槍子彈現展示在常設展中。

戦争の痕跡

第二次世界大戰（1939–1945）中、半田赤レンガ建物は中島飛行機の食糧・衣料品倉庫として使用されていました。そのため空襲の標的となり、1945 年 7 月 15 日午後 1 時頃、子どもたちが外で遊んでいた最中に、アメリカ軍の P-51 マスタング戦闘爆撃機による攻撃を受けました。飛行機は非常に低空で飛来し、子どもたちは後にパイロットの表情まで見えたと言っています。北側の外壁には、今もなお機銃掃射の跡が残っており、無数の弾痕が確認できます。壁の表面から回収された実物の P-51 弾は、常設展示で見ることができます。

推車軌道

20 世紀初，為連接啤酒廠與半田車站，專門鋪設了推車軌道。這些推車車長 1.8 公尺，寬 1 公尺，可以裝載 8 至 12 箱的 48 瓶啤酒。這些推車以人力沿坡推下至半田車站西側的 Kabuto 啤酒公司倉庫。空車隨後裝載物資與日用品，再沿坡推回工廠。

トロツコ

20 世紀初頭、釀造所と半田駅を結ぶ専用のトロツコ軌道が敷設されました。トロツコは長さ 1.8 メートル、幅 1 メートルで、ビール 48 本入りの木箱を 8～12 箱運ぶことができました。トロツコを手作業で押して坂を下り、半田駅の西側にあったカブトビールの倉庫へと運びました。空になったトロツコには食料品や日用品が積み込まれ、再び人の手によって坂道を押し上げて工場へ戻されていました。
